



自動操舵と車速連動による高精度播種



キュウホーカルチによる適期除草

弾丸暗渠の施工(80cm間隔)と石灰窒素の深層施肥

R7年産「そらシリーズ」の栽培状況

<(農)ふくどみ>



リフターによる収穫ロスの軽減



ドローンによる適期の病虫害防除



吊り下げノズルによる仕上げの除草剤散布

令和7年12月12日大豆多収品種「そらシリーズ」に関するシンポジウム
(農)ふくどみ 副代表理事(機械部長) 高橋智和

- ・ 島根県出雲市斐川町
- ・ 品目：水稲、大麦、大豆、小豆
(2年3作・ブロックローテーション)

水稻: 19ha

「ヒメノモチ」、「つや姫」、
「きぬむすめ」

大麦: 16.6ha

「サチホゴールドン」(二条大麦)

大豆: 12.8ha

「タマホマレ」、「そらみのり」、「SKT01」

小豆: 3.8ha

「丹波大納言」



「そらしシリーズ」の栽培概要①

品種名	そらみのり	比)サチュタカA1号	そらみのり	タマホマレ
栽培年度	R6		R7	
作付面積(a)	16.48	436.14	117.92	1133.91
播種日(月/日)	6月7日	6月5日他	7月5日	6月7日他
栽培形態	慣行	慣行	慣行	慣行
播種量(kg/10a)	4.5	5.5	3.0	4.2
土づくり (/10a)	麦稈 すき込み		麦稈 すき込み	
	6/7 アグリ革命アクア 100ml 5/23 粗粒サンライム 40kg		5/31 粗粒サンライム 80kg 6/2 ASK(発酵もろみ粕堆肥) 160kg	
施肥 (/10a)	5/27 石灰窒素 25kg (深層施肥)		6/5 石灰窒素 25kg (深層施肥)	
	6/7 オリザ463 10kg (側条施肥 播種時)	—	7/5 オリザ463 15kg (側条施肥 播種時)	6/9 オリザ463 15kg (側条施肥 播種時)

「そらしリーズ」の栽培概要②

	そらみのり	サチュタカA1号	そらみのり	タマホマレ
供試年度	R6		R7	
中耕・培土 (月/日)	6/22、7/5		7/22.29.8/4	6/29.7/5.13
種子予措	クルーザーMAXX マイコス菌根菌(YGイーストガード、IGアイアンガードアクア、K3NEO)			
除草剤	5/29 ラウンドアップマックスロード 6/7 エコトップP乳剤(播種時) 6/15 パワーガイザー液剤 250ml 7/21 大豆バサグラン液剤 ポルトフロアブル	7/2 ラウンドアップ マックスロード 7/5 ラクサー乳剤 7/17 パワーガイザー液剤	6/7 ラウンドアップ マックスロード 6/9 ラクサー乳剤 6/18 パワーガイザー液剤 7/16 大豆バサグラン液剤 ポルトフロアブル	
病虫害防除	8/4 プレバソンフロアブル5 8/10 カスケード乳剤 8/22 アミスタートレボンSE 9/13 アミスタートレボンSE 10/6 スミチオン乳剤	8/8 アミスター20フロアブル カスケード乳剤 9/6 アミスタートレボンSE 9/12 ブロフレアSC スタークル液剤10 10/3 スタークル液剤10 プレバソンフロアブル 10/17 スミチオン乳剤	9/25 スタークル液剤10	
畦間灌水	2回 (8/9.20)	3回 (8/1.9.20)	なし	2回 (7/25.8/3)

「そらみのり」生育期の様子



10/21 そらみのり



10/21 左:そらみのり
右:タマホマレ



11/26 そらみのり



11/6 タマホマレ

「そらしシリーズ」の栽培概要③

品種名	そらみのり	サチュタカA1号	そらみのり	タマホマレ
栽培年度	R6		R7	
収穫日(月/日)	12月13日	11月11日	11月29日	11月11日
株数(本/m ²)	12	13.3	12	17.3
収量 (kg/10a、篩目 6.7mm)	278	198	354 (荷受重量)	316 (荷受重量)
(参考) 粗子実重 (kg/10a) 精子実重 (kg/10a) (6.7mm)	455 401	393 361	444 419	477 405
百粒重(g)	24.7	30.2	26.8	31.0
農産物検査 結果 (終了している 場合)	中粒:2等 66.4% 小粒:特定加工 33.6% (合格)	大粒:3等 52.4% 中粒:特定加工 34.5% (合格) 小粒:特定加工 13.1% (合格)	選別中	

「そらシリーズ」を栽培してみて

■良かった点

- ・初期生育が旺盛な上、「そらみのり」は分枝が多くて長いため、条間を覆う速度が早く、雑草防除に繋がった。当法人では、条間75cmの慣行栽培であるため、大きな効果を感じた
- ・最下着莢高が高く、刈り残しが少なかった

■難しいと感じた点

- ・熟期が遅いためカメムシ防除の徹底が必要

■課題

- ・播種時期、播種量についてさらなる検討が必要。次年度は播種時期を1週間程度早める。また、播種量の増加を検討(3.2kg/10a)

■行政等への要望(産地品種銘柄申請をしてほしい等)

- ・実需の評価が気になるが、生産者としては数量が確保できる品種が望ましい
- ・新系統・品種の試験を県の試験研究機関で行っていただきたい

刈り取り前の「そらみのり」様子



刈り取り後の「そらみのり」様子



刈り取り直後の「そらみのり」



今後における「そらシリーズ」の展望

播種時期、播種量を調整し、適切な株数・着莢数を把握する。また、土づくりの徹底により登熟を向上させ小粒化を防ぐ。
これにより大粒化を図り、反収400kgを目指す

安らぎと調和のとれた魅力あるふるさとを目指して



ご清聴ありがとうございました